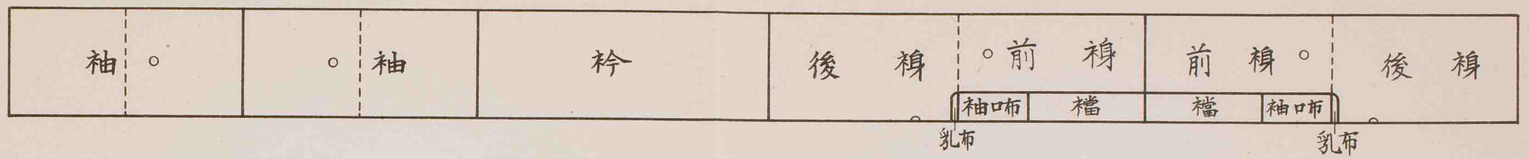
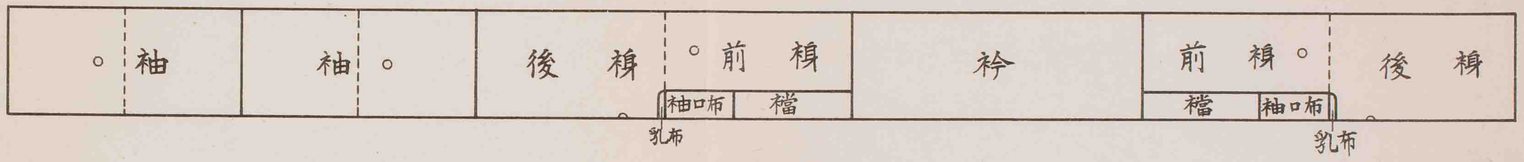
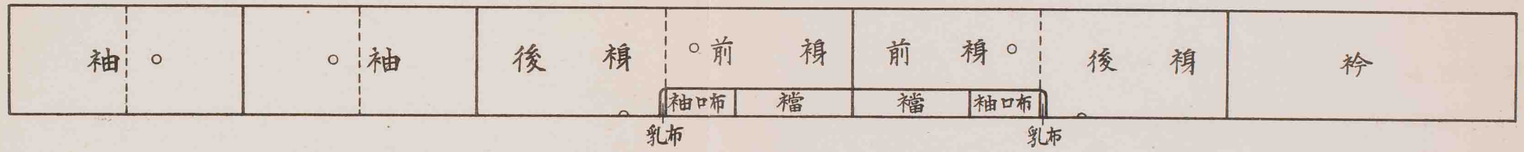
第三十六圖　（普通の裁方に同じ）



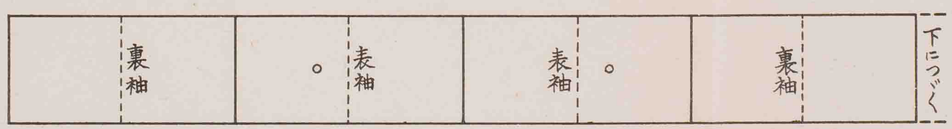
第三十七圖　（衿を褄の間で取る故前丈と衿との融通がつく）



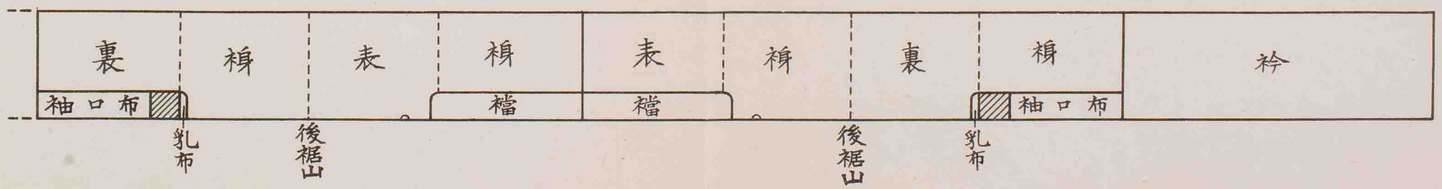
第三十八圖　（石持ち等に多い裁方で布の端から衿を取ることは好ましくない）



第四十圖



第四十圖



『注意』

衿は模様の都合により,折疊方の異る場合あり,何れにしても模様のよく合ふ様にする。

仕立方

模様の處は縫標を合せて,着代(0.1cm)だけ淺くして,細かに縫ふ。

其の他の縫方は普通の羽織に同じ。

『注意』

刺繍·描繪等の時は柔かき布又は紙にて覆ひ模様の汚れを防ぐ.

仕上

模様の種類又地質に應じて仕上をする。

總割仕立

(男袷羽織)

此の仕立方は,品質の良い地厚物にする特種な縫方である。

標附方

襠の上部幅を1cm位にする。

各處の着代不要(縫目を割るから)

但袖口明衿附は普通羽織に同じ

仕立方

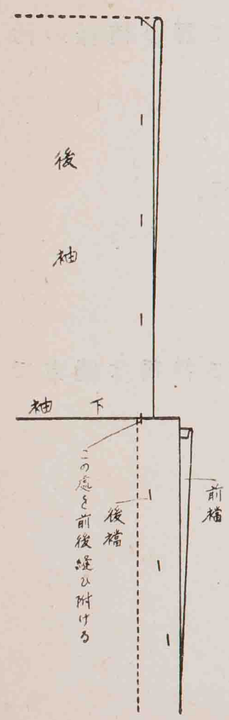
縫目の注意，急所は半返し其の他は極細針に縫ふ。

1 袖

袖口を縫ひ合せ,口明留をなし,袖口下及び袖下は表裏を別々に縫ひ,縫目を割り,袖丸味に襞を取り,縫目を綴ぢ合せる。

但袖下にて附の方を,襠上部幅だけ縫ひ殘す。

第四十一圖



2 前下及び胴接

前下を普通に縫ひ,胴接は標通りに縫ひて目を割る。

3 脊縫

脊を縫ひ,縫目を割る。

4 襠の胴接及び襠上部の縫附方

胴接を脊と同樣にして,袖下の縫ひ殘した處の前後に襠上部を縫ひ附けて縫目を割る。

5 前後袖附と襠附

袖山と肩山と,脇裾山と襠裾山とを前後別々に合せて待針を打ち,其の間にも待針を打つて,前後共表裏を續けて縫ひ,縫目を割る。

〔注意〕

襠上部にて縫代が重なり,落附の

惡い所は適當に切り取り平にする。

6 裾芯及び縱綴

女袷羽織と同樣に裾に芯を入れ縱綴をする。

7 乳附及び衿附

絎衿仕立と同樣。

着物裁大裁羽織

此の裁方は,長着に流用されるから,前落しをせず,身丈も前後を同樣にし,袖口布は別に取り,又襠は衽に用ひられる樣に裁つ。

裁方,積方

其の一　附圖第四十二圖參照

{總用布－(4袖丈＋袖口布)＋2衽下}÷6＝身丈

〔注意〕

總用布の短かき場合は袖口布丈の半分と接代とを取り,山接にする。

其の二　附圖第四十三圖參照

(用布の十分ある場合)

〔總用布－{4袖丈＋(襠丈＋上下縫代)}＋2衽下〕÷6＝身丈

〔注意〕

身丈を長くせんとする場合は

〔總用布－{4袖丈＋(襠丈＋上下縫代)＋衿丈(羽織)}〕÷4＝身丈

この場合,衽丈の不足は鈎にして補ふ

其の三　附圖第四十四圖參照

(總用布－4袖丈)÷2＝身丈

〔注意〕

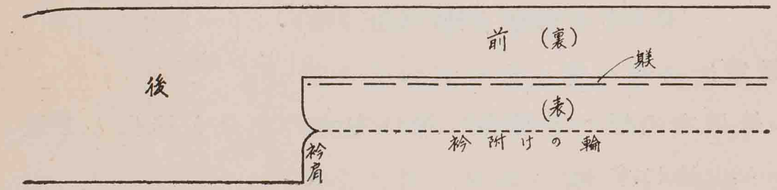
大幅物のメリンス等で,變色し易すきものは此の裁方が適當である。若し肩幅不足の場合は背を縫目なしにする。

標附方

褄

前褄の縫込になる部分を,衿肩丸味の處より眞直に裏へ折り返して躾をなし,普通に標をする

第四十五圖



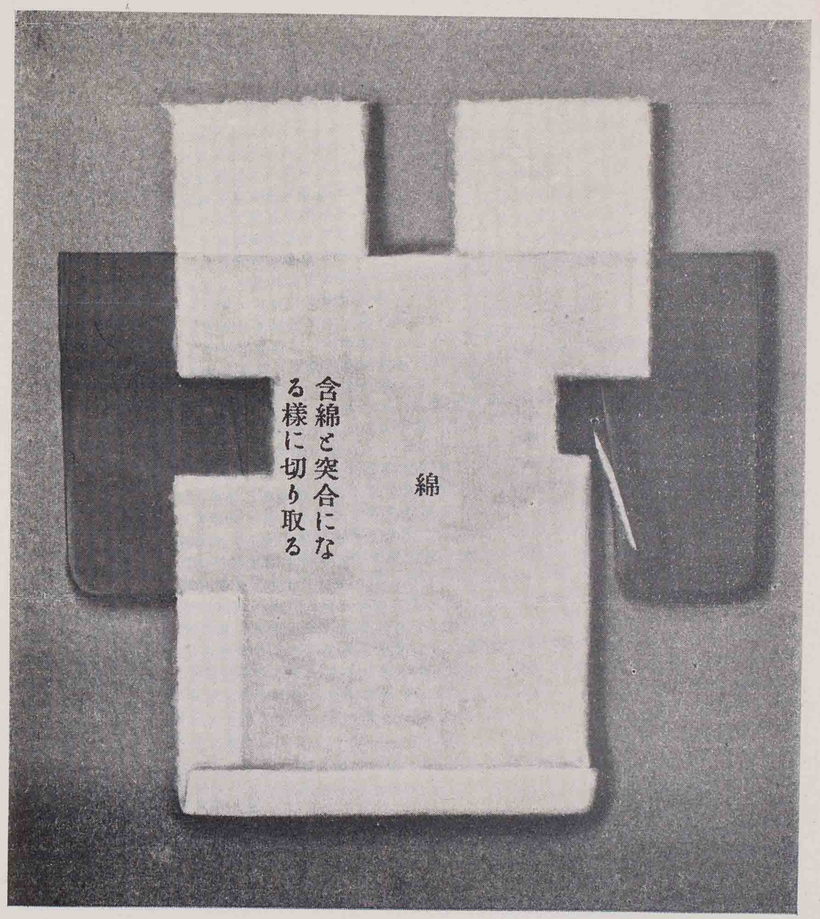
襠

衽布となるべき布を用ふる場合は裁目を前にし,前の方は普通の縫代にとり,幅廣き分は後襠附で縫ひ込む。

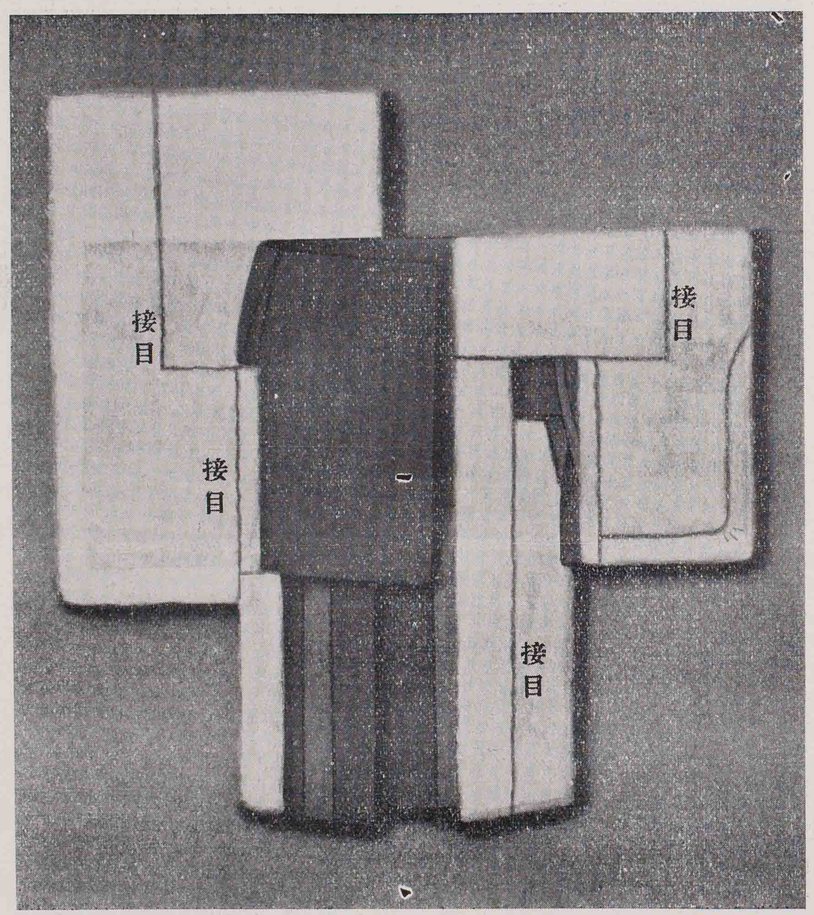
衿

褄の衿附が輪になつて居るから,芯幅を定める時衿附縫代だけ幅を控へる。

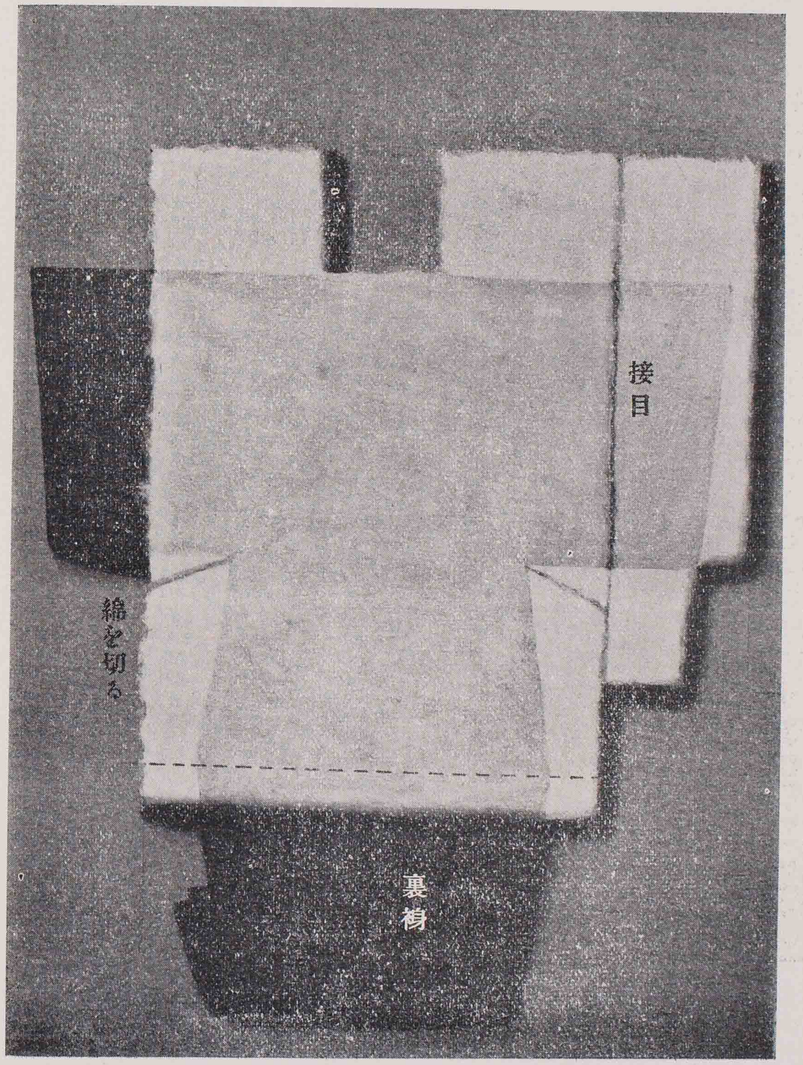
第四十六圖



第四十七圖



第四十八圖



第五章

羽織綿の分量

單位グラム

名稱＼種類	青梅綿（小袖綿）	眞綿	吹止綿
大裁	84～116（二枚）	37.5～56	（羽織用
中裁	62～87（二枚半）	25.5～37.5	
小裁	42～58（一枚）	13～19	

第六章　大裁女綿入羽織

地質・寸法・裁方・積方

以上は大裁女袷羽織に同じ。

標附方（大裁女袷羽織と異る點）

綿の厚さにより裏の控へ方に注意する。

裏袖

袖丈

袖口の方で0.1cm乃至0.2cm
振の方では0.4cm乃至0.5cm　}表より詰める

袖口下縫代

縫代＋袵×2＝袖口下縫代

若し裏幅狭き場合は袖口布を0.9cm位までは裏袖より外に掛け出してもよい。

前下

表の返りを0.4cmにする。隨つて前下標は4.6cmになる。

仕立方

順序

1 表袖
2 裏袖
3 振八つ合及び含綿
4 前下縫及び胴接
5 背縫及び幅標
6 前後襠附

7 身八つ口縫
8 表裏袖附
9 綿入
10 裾假綴及び背縫綴
11 袖口の含綿及び紵方
12 衿附假綴及び乳附
13 衿附及び衿紵
14 仕上

方法

1 表袖

綿入長着の如く表袖を縫ひ,躾を掛けて幅標をする。

2 裏袖

袖口布を掛けて表袖と同様に縫ひ，表標附幅より0.5cm控へて幅標をする。

3 振八つ合及び含綿

振を合せ,含綿をして表に返し,表より躾を懸ける。

4 前下縫,及び胴接

前下を縫ひ,折山より0.4cm入つて2cm位の隠躾をなし,胴接をする。但前は折返の二倍(0.8cm)縫ひ込む。

5 背縫及び幅標

大裁女袷羽織背別仕立の方法に依る。

6 前後襠附

襠を女袷羽織別仕立の時と同様に附ける。

7 身八つ口縫

身八つ口を縫ひ,襠上部及び身八つ口に含綿をして表返し,躾を掛ける。

8 表裏袖附

長着の如く表裏の袖を別々に附ける。

9 綿入

(1)準備

以上縫ひ上つたものの後褄の裏を外にて,襠は幅の中央より折りて前褄と共に後褄の表裏の間に正しく疊み込み,表褄を上にして平に置く。

(2)後褄に綿の入方

綿幅の中央と背縫目とを合せて綿を廣げて置き(この時裾口では綿の方を7cm位長くなし,綿の長い分は肩の方へ出して置く)第四十六圖の如く衿肩と身八つ口の處との綿を切り取り,裾は1cm位綿を長くして殘りを折り返し,身八つ口下の幅廣き綿は表裏の襠の間より前褄に折り返して置く。

(3)前褄の出方

長着の如く,表裏の肩の間より手を入れ襠裾と綿とを持つて引き返し,裏前褄を上に置く。

(4)後袖に綿の入方

裏袖を開き,袖附の處より出た綿を平にして不足の處に圖の如く綿を補ひ,接目を正しくする。

(5)前褄に綿の入方

肩山より出て居る綿を前褄の上に折り返し,袖下及び袖口下より出て居る綿を裏袖の上に折り返して圖の

如く接ぎ合す。

脇より出て居る綿を布より外に廣げ,表裏の前襠縫目を合せ,裾口より5cm上つた處まで綴ぢ合せる。

脇の綿を裏前褄の上に折り返し,不足の分を補ふ。但前下の處は形通り綿を入れる。

(6)引返方

上部は表褄の間より手を入れて袂振八つ及び,袖口を持つて引き返し,裾は手で前下の處を綿の上より押へて表前褄を引き返す。

(7)引合方

背の縫目をよく合はせて丈幅の引合をなし,肩及び袖の中に手を入れて袖と衿とを引き合せ次に前身幅の引き合せをする。

10裾假綴及び背縦綴

裾山へ綿を含めて4cm位上つた處に一目落しに假綴ぢをする。

背縫目をよく合せ,裾より5cm上つた處まで綴ぢ合せる。

11袖口含綿及び衿方

袖口の處は綿を薄め其の上に芯綿を入れて綿綴ぢをなし,袵を定めて衿け,其の糸にて袖口下縫目を袂の處まで綴ぢ合せる。

12衿附假綴及び乳附

衿附縫代の處は綿を薄くし,綿幅の廣き分は摘み取り,衿衿の時と同樣に假綴をなし,乳を附ける。

13 衿附及び衿衿

女袷羽織衿衿仕立と同樣。

14 仕上

綿屑等を取り去り綿を落ち附ける樣アイロンを掛けて疊み附ける。

第七章
大裁男綿入羽織

寸法・裁方・積方

大裁男袷羽織に同じ。

標附方

裏袖

袖丈を表より0.1cm乃至0.2cm全體で詰める。

仕立方

（女綿入羽織と異る點）

表裏の袖附

袖附止にて裄と袖とにて留をなし表裏を別々に附ける。

綿入

(1) 準備

布の裏を出して襠幅を二つに折り,後裄の上に前裄を疊み附け,裏の方は袖を前裄の上へ折り曲げて前裄の方へ輕く卷き疊みにし(胴接の邊まで)表後裄を上に置き直す。

(2) 後裄に綿の入方

後裄の上に女羽織と同樣に綿を置き,袖幅の處で綿の不足を補ひ,袖附止の處では斜に綿を切り,裾山の處へ尺度を置き,これを押へて裏裄を表後裄の上に折り返

し,衿肩及び衿を合せて,尺度を輕く抜き取る。

(3)前襟に綿の入方

前襠を女綿入羽織と同樣に綴ぢた後,後より出て居る綿(脇·肩山·袖下·袖口下)を前の上に折り返し不足の處は綿を補ひ,女綿入羽織と同樣に引き返し,引き合せをする。

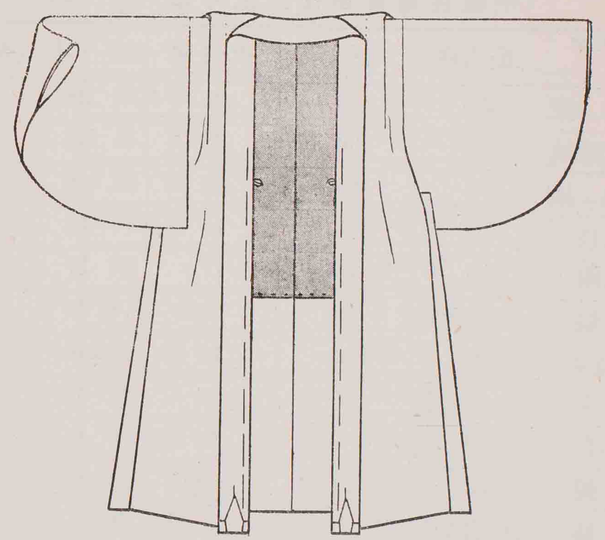
〔備考〕 綿の取扱ひは長着の場合に同じ

第八章
中裁綿入羽織

出來上圖

第四十九圖

前



地質

表地

綿織物 木綿, 瓦斯, 紡績, 新モス等

絹織物 銘仙, 富士絹, 羽二重, 御召, 紬, 縮緬, 錦紗等

毛織物 メリンス

其他人絹及び交織等

裏地

大裁の地質に同じ。

袖の種類

袂袖，筒袖，元祿袖

（中裁長着普通仕立上寸法）　單位cm

各部名稱＼年齡		五·六歳	七·八歳	九·十歳	十一·十二歳
袖丈	筒袖	24	26	28	28
	元祿袖	28	30	32	34
	袂袖	60	63	65	68
袖口		13	15	15	16
袖附		15	15	17	17
袖幅		25内外	28	30	32
身丈(裁切)		100	110	115	120
衿肩明		5	55	6	65
身八つ口		10	〃	〃	〃
後幅		22	24	いっぱい	〃
前幅		いっぱい	〃	〃	〃
肩幅		いっぱい	〃	〃	〃
衽下		11	12	13	15
衿下		26	30	34	40—42
衽幅		いっぱい	〃	〃	〃(13.5)
衿幅		4	4.2	4.5	4.8
着丈		74	80	85	95
裄		37	42	45	50

長着を基とする羽織寸法の定方(中裁)　單位cm

各部名稱＼種類	中裁		
	袂袖	元祿袖	筒袖
袖丈	同寸又は1減	1 増	1.5 増
袖口	同寸	同寸	1.5 増
袖附	0.5 増		
袖幅	0.5 増		
袖丸味	同寸		
身丈	着丈×$\frac{3}{4}$+10内外		
繰越	1		
衿肩明	0.4 増		
裄	0.4 増		
身八つ口	8～9		
後幅	同寸		
前下	2～3		
前幅	いっぱい		
乳下	23～27		
衿幅	4.5～5.5		
襠幅	上 2		
	下 5～6		

裁切寸法の定方

表

袖丈……大裁に同じ

後身丈……仕立上身丈に 20cm内外の折返と縫代とを加へる。

前身丈　後身丈に10cm内外前後の差を加へる。

衿丈　仕立上身丈に17cm乃至20cmを加へて二倍す。

襠幅　仕立上襠幅に2cm加へる。

裏

胴裏丈　大裁の場合に同じ。但發育盛りの子供のものであるから胴接の餘裕を十分に(10cm乃至15cm位)取つて置く。

用布の概尺

袂袖　645cm乃至758cm

筒袖及び元祿袖　530cm乃至600cm

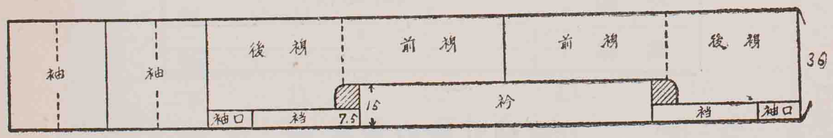
裁方　積方（元祿袖）

仕立上寸法

袖丈　30cm　　身丈　80cm

表　並幅　總用布　530cm(半反)

第五十圖



(總用布－4袖丈－2前後の差)÷4＝後身丈

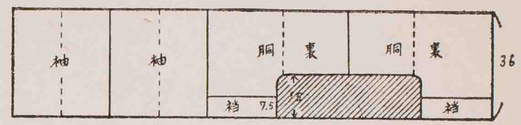
後身丈＋前後の差＝前身丈

〔注意〕折返の少い時は襠丈と衿丈とを積つて見て不足

等のない樣にする。

裏

第五十一圖



4{袖丈＋(2上身丈－裁切表後身丈＋胴接代)}＋4前下及び縫代－2前後の差＝裏總用布

〔備考〕

袂袖　筒袖の裁方は袖丈が異るのみで元祿袖の裁方に同じ。

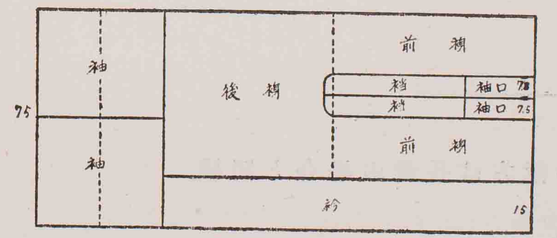
袂　袖

仕立上寸法

袖丈　60cm　身丈　78cm　前後の差　10cm

幅　75cm　總用布　340cm

第五十二圖



2袖丈＋2(上身丈＋折返)＋前後の差＝總用布

標附方

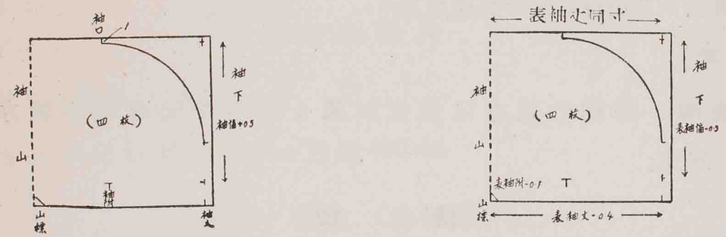
袖

(1) **袂袖**　寸法の異るのみで大裁綿入羽織袖の標附に同じ

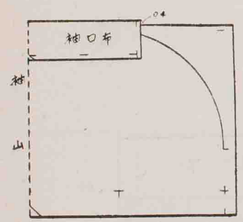
(2) **元祿袖**

第五十三圖表

第五十四圖裏　(其一)



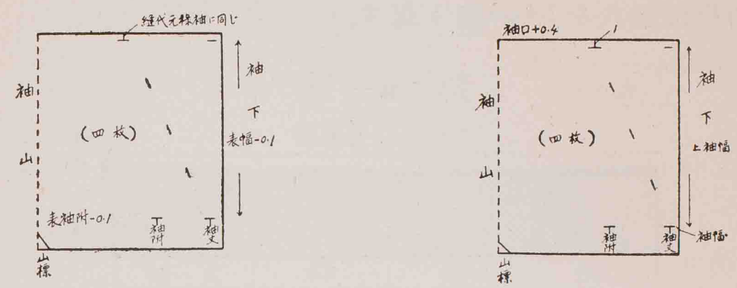
(其二)



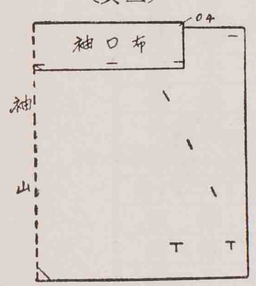
丸味の附方は長着の場合と同様。

第五十五圖表

第五十六圖裏　(其一)



(其二)



袴

寸法の異るのみにて大裁綿入女羽織と同様

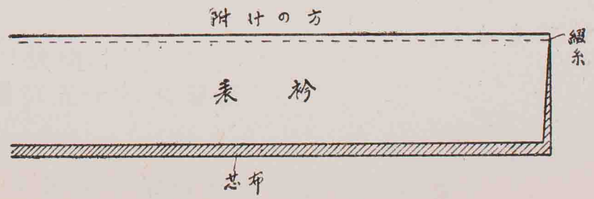
衿

(1) 衿の綴方

衿芯の上に表衿を置き平に釣合を取り,端を綴ぢる

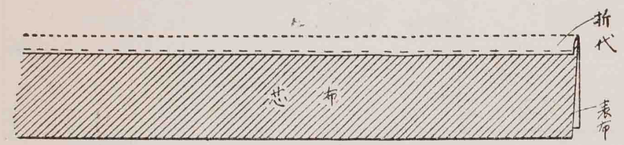
第五十七圖

(其一)



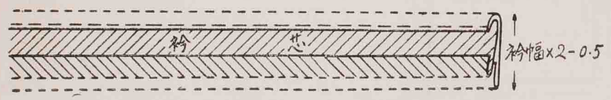
(2)衿附縫代を1·4 cm折り返す。

(其二)



(3)下圖の寸法通り表衿を折り,次に衿芯を折る。

(其三)



紵け附ける方

(4)紵ける方の折山を附けの折山より,0.5 cm控へて幅を二つに折り躾を掛ける。

(5)丈を二つに折り丈標山標をする。

仕　立　方

大裁女綿入羽織及び中裁綿入長着に準ず。

但前肩揚は乳下の邊までなし,又衿を下より乳下まで綴ぢ附けてもよい。

第　九　章

小裁羽織　(三四歳)

普通仕立上寸法

單位cm

類種 / 各部名稱	小裁		
	長袖	元祿袖	筒袖
袖丈	57	26	22
袖口	13	〃	15
袖附	15		
袖幅	25內外		
身丈	65內外		
繰越	1		
衿肩明	4.5		
紵	34		
身八つ口	8		
後幅	いっぱい		
前幅	いっぱい		
前下	2		
乳下	20～21		
襠幅	上	5	
	下	2～3	
衿幅	4.5		

用布の概尺

袂袖　530 cm

筒袖及び元祿袖　400 cm

裁方積方

表

並幅　(袂袖)

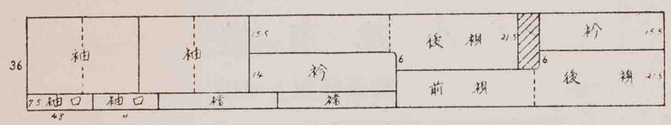
附圖第五十八圖參照

4袖丈＋3(上身丈＋折返)＋前後の差＋補布＝總用布

衿丈＋接代＋袖口布－後身丈＝補布

並幅片面物(元祿袖)

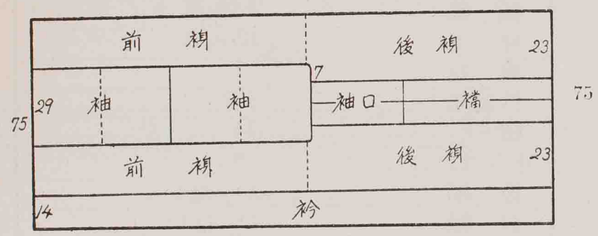
第五十九圖



4 袖丈＋3(上身丈＋折返)＋2 前後の差＝總用布

大幅　(元祿袖)

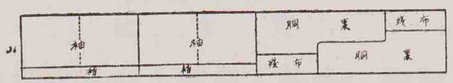
第六十圖



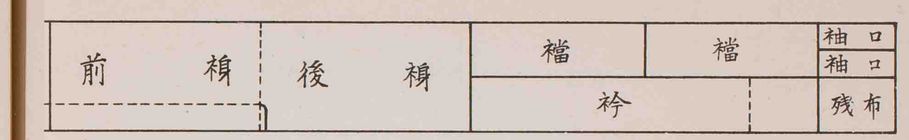
4 袖丈＋(上身丈＋折返)＝總用布

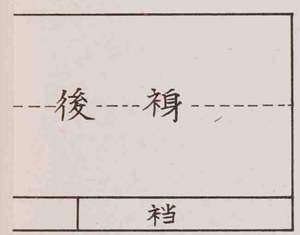
裏

(並幅)　　第六十一圖



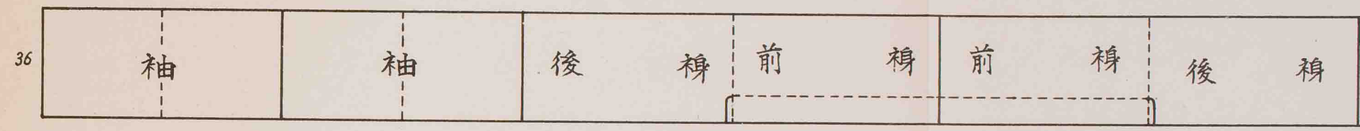
4 袖丈＋(2 上身丈－裁切後身丈＋胴接代)×3＝裏總用布



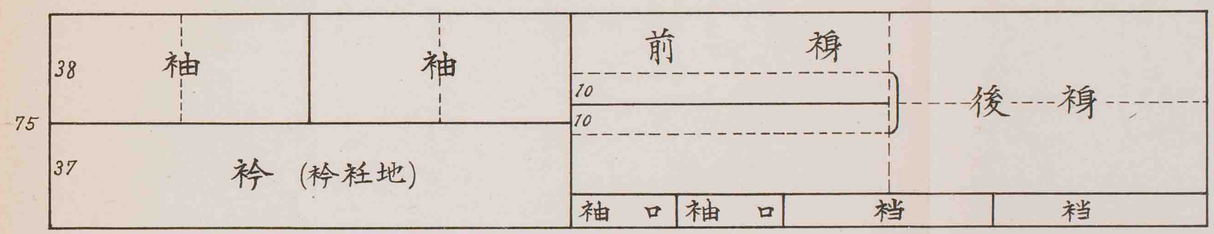


第四十二圖

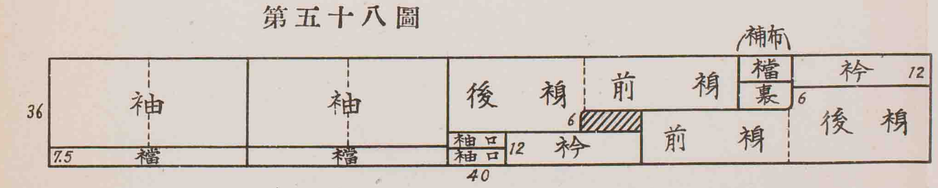
第四十三圖



第四十四圖

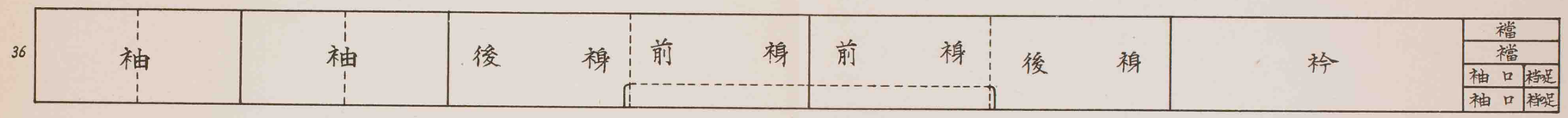


第五十八圖



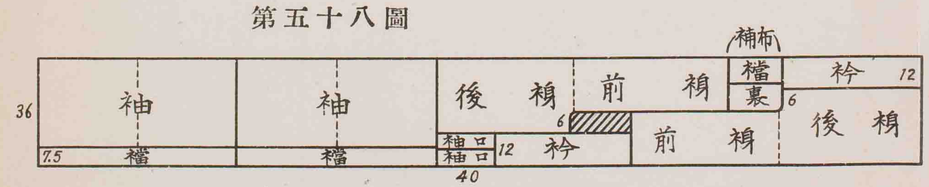
第四十二圖

第四十三圖



第四十四圖

第五十八圖



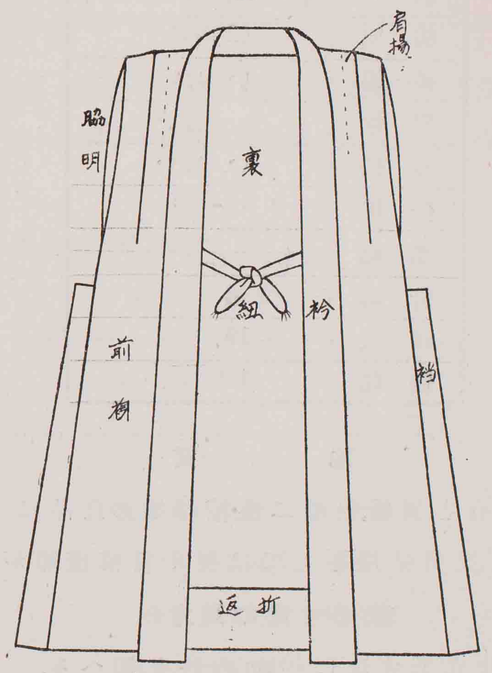
第十一章

小裁綿入袖無羽織

各部の名稱

第六十二圖

前



仕立上寸法

單位cm

年齡 ＼ 各部名稱	一·二歲
身丈	55內外
衿肩明	4
繰越	1
前下	1～2(付けないでもよい)
脇明	22內外
後幅	いっぱい
肩幅	いっぱい
前幅	いっぱい
紐附	19～20
襠幅	上 5～6
	下 3～4
衿幅	4
紐丈	19
紐幅	1.2

地　　質

中裁の場合と同樣.但羽二重·縮緬等の良品は特別模樣を染め出し,又男兒用としては熨斗目模樣等がある。

裁切寸法の定方

後身丈……仕立上寸法に10cm內外を加へる。

前身丈……後身丈に5cm位加へる。

紐

丈……仕立上寸法に1cm加へる。

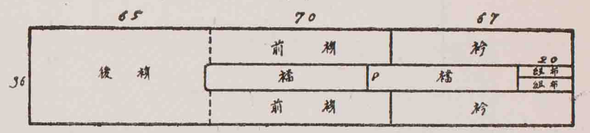
幅　　仕立上寸法に0.5cm加へて二倍する。

裁方積方(前下なし)

表

並幅　總用布202cm

第六十三圖



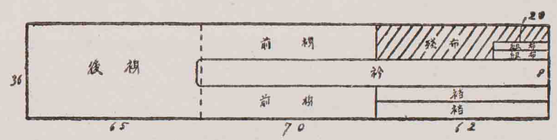
2(上身丈＋折返り)＋前後の差＋衿裁切丈の半分＝總用布

上身丈＋衿肩明＋繰越＋衿先縫代及び接代＝衿丈の半分

並幅

總用布　197cm

第六十四圖

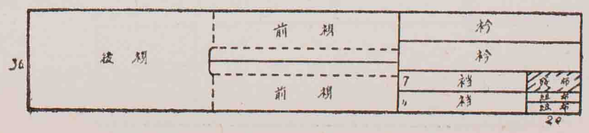


後身丈＋前後の差＝前身丈

衿丈－前身丈＝襠丈

後身丈＋衿丈＝總用布

第六十五圖

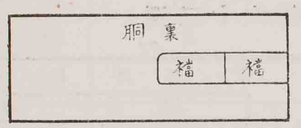


積方　第六十三圖の積方に同じ。

裏

並幅

第六十六圖



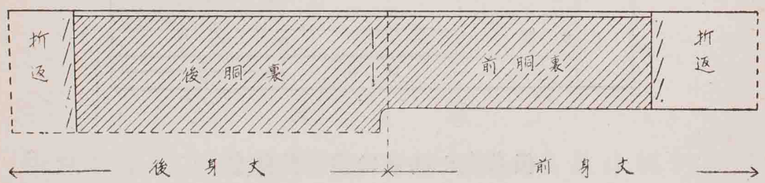
2(2上身丈−表後身丈＋接代)−前後の差＝裏總布

標　附　方

裾

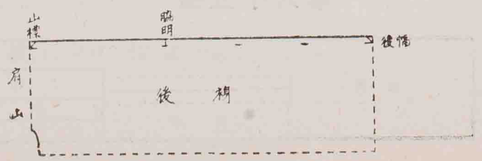
表裏の裾を中表に幅を二つ折にして重ね圖の如く平に置き丈を定めて胴接の處に躾をする。

第七十六圖



第六十八圖　**裾　後**

後身を前の上に折り重ねる。



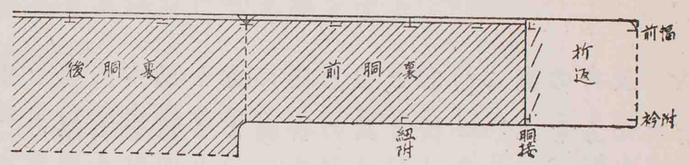
1 脇明

2 後幅(いっぱい)

3 山標

第六十九圖

後丈を左に開く。



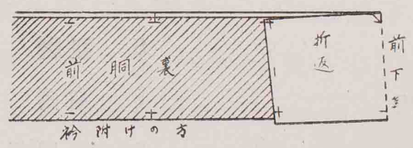
1 紐附

2 衿附

3 胴接(前後)

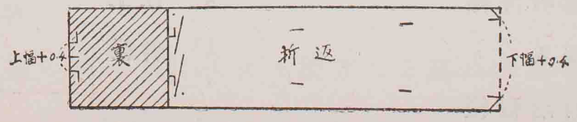
〔**備考**〕前下を附ける場合は大裁羽織と同方法に附ける若し裏の折返少く,前下も1cm位の時は次圖如くするもよろし。

第七十圖　前下



第七十一圖　襠

大裁羽織と同樣に置く。



1 丈標

2 裾口幅標(幅の中央より左右へ$\frac{襠幅}{2}$+0.2)

3 上部幅標(同上)

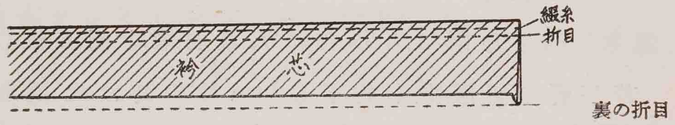
4 襠附標

5 胴接標

衿

折方 表衿の裏に衿芯を重ね,附の方を揃へて躾を掛け,附けの方を1.6 cm 折り其の折山より幅を上幅の二倍より0.5 cm 控へたものに度つて折を附け(芯は其處にて切り取る)裏を0.5 cm 控へて幅を二つに折る。

第七十二圖



仕立方 (綿入)

順序

1 胴接
2 前後襠附
3 襠上部縫
4 脇明縫
5 脇明含綿
6 綿入
7 衿附假綴
8 紐縫
9 紐附
10 衿附及び衿新
11 衿綴
12 仕上
13 肩揚

1 胴接

2 前後襠附

1・2は大裁女羽織同樣,但前胴接は前下なき爲後と同樣

3 襠上部縫

表を外に丈を二つに折り,襠上部を裏返して表裏を縫ひ合せ裏縫目に含め綿をする。

4 脇明縫

表裏の脇山標を合せて待針を打ち,それより左右に釣合を取り,脇明止にて糸留をなし,其の糸を續けて脇明を縫ふ。(其時4 cm 位の間にて裏を0.8 cm 縫ひ込む)

5 脇明含綿

綿幅を3 cm 位に切り,之を平にして,裏脇明縫目の上に載せて綴ぢ附ける。

6 綿入

(1) 後襠

後襠の裏を出し,次圖の如く(二枚通りにしてもよい)綿を入れ,表裾より綿を1 cm 位長くして折り返し,脇明の處では布と綿とを同幅にして殘りを折り返し,前の表裏の間より手を入れて脇裾と綿とを持つて引き返すこと大裁女綿入羽織に同じ。

(2) 前襠

前襠の裏の上に,後より續きたる脇及び肩の綿を折り返して入れ,綿の接目を平にして引き返し,綿の引き

合せをする。(此時脇明の山及び裾山によく綿を含ませ假綴をする)

7　衿附假綴

大裁女綿入羽織の如く綿の厚みだけ表前幅を釣らせて躾を掛ける。(紐附より上5cm位まで)

8　紐縫

紐幅を1.2cmにして細かに縫ひ,折を左右向き合せに附け,表に引き返し,眞綿を紐と同じ位の太さに伸ばして之を紐の中に引き込み,側を平にして紐先きを絹糸二本にして,三針又は五針淺く抄つて留をなし,其の糸を1.5cm位殘して切る。

9　紐附

縫目を紐幅の中央にし,折の下向きになる樣に縫ひ附ける。

10　衿附及び衿衍

衿を大裁女綿入羽織と同樣に附け,衿先を縫ひ,裏を衍ける。(襟の厚みと釣合を取る爲に綿を芯に入れる事もある)

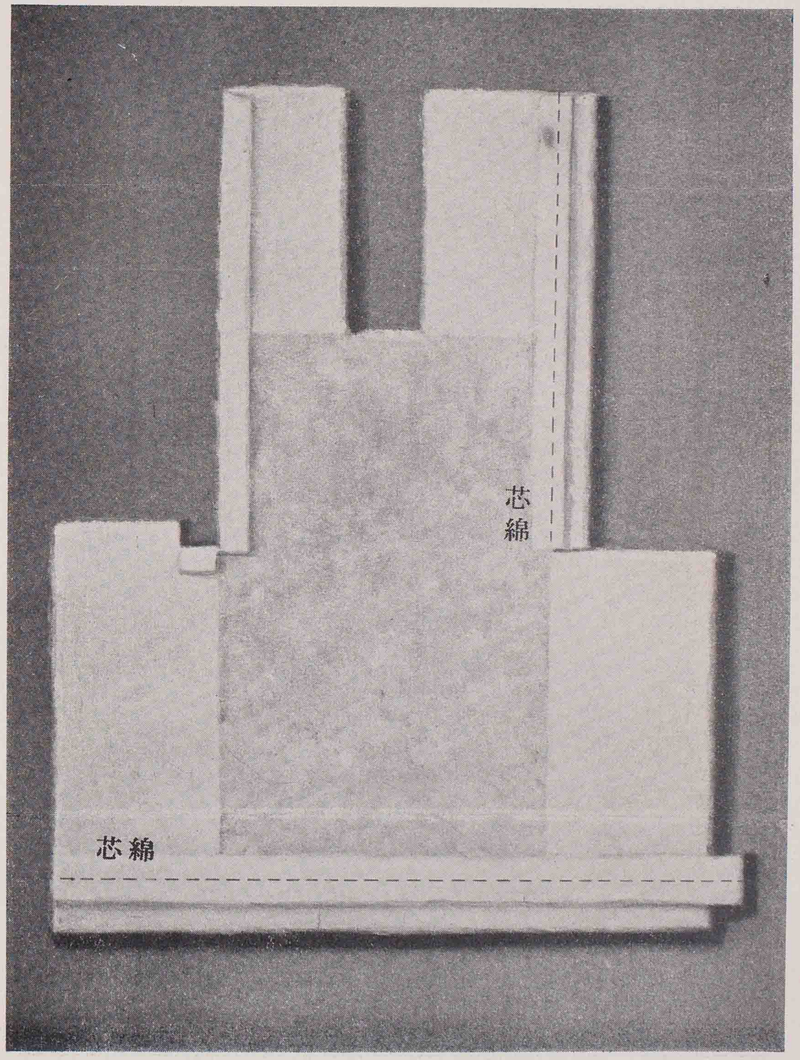
11 衿綴

着用する樣に衿を折り,衿肩廻は,附より0.3位奥を,紐附より下は衿幅の中央處を衍け附ける。

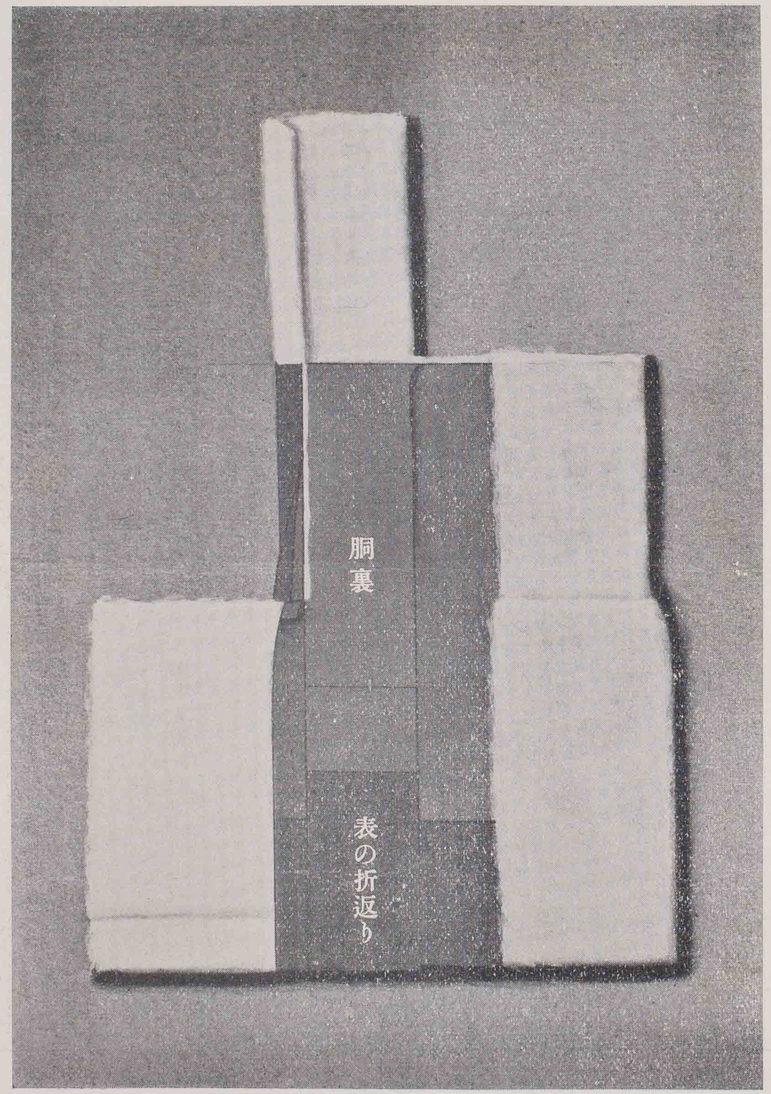
12　仕上

13　肩揚

第七十三圖



第七十四圖



位置は衿肩止より0.8 cm に取り,それより,肩の端までを四等分して其の四分の一を折山とし,衿肩止より0.8 cm離れた處を長さは脇明止より5cm位上までを摘む。但前揚山は衿下に這入るから脇の方へぞらせて格好よくする。

第十章

單羽織

地質

絹織物

縮緬類 (壁縮緬·立てしぼ縮緬·紋縮緬·小濱縮緬·錦紗縮緬·鶉縮緬等)

絽の類 (平絽·絽縮緬·風通絽·御召絽·錦紗絽等)

薄物類 (紗·紗縮緬·明石·透綾等)

毛織物 (セル·アルパカ·サージ.モスリン)

其の他普通の絹布類

〔**備考**〕以上の中紗及び絽には肩裏の附いた樣に模樣を裏に織り出したものもある。

地質により用ふる時期

毛織物·羽二重·縮緬類·厚目の絽類は,セル及び袷の上に着し,薄目の絽類は暑中及び其の前後に,又薄物は暑中に用ふ。

但平絽は暑中及び其の前後にも用ふ。

仕立上寸法

男女共袷羽織と同樣にする。

但夏物は身丈を1cm乃至2cm短かくする。

用布の概尺

1000cm乃至1050cm位を普通とする。

裁方種類

棒襠裁方

鈎襠裁方

以上用布の丈長き場合は襠當裁とし,丈短かき時は鈎襠裁とする。

仕立方種類

並仕立 (縫代を耳絎にしたもの)

上仕立 (縫代の端を折りて絎け附けたもの)

總落仕立 (縫代の端を切つて細く撚絎又は折縫にしたもの)

肩當

肩の滑りのよい爲に同布又は同色,薄色の甲斐絹等を用ひる,又男の紋付羽織は肩當を共布にて取る,此の場合紋の處は白く染め拔いてある。

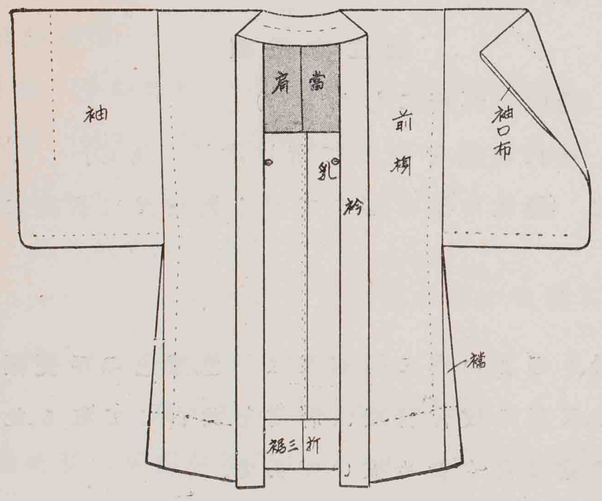
第十二章

男單羽織

各部名稱（肩當附）

第七十五圖

前



裁切寸法の定方

後身丈

仕立上寸法に裾の三つ折代を加へる。但三つ折幅は身丈の$\frac{1}{10}$乃至$\frac{1.5}{10}$を普通とする。

前身丈

後身丈に前下を加へる。

襠丈

後身丈より上袖丈を減じ,それに上部の紵代1cm を加へる。

肩當丈

後・ 20cm 乃至 40cm 位

前・ 後より稍短くするが,乳下までを限度とする。

裁方積方

所要仕立上寸法

袖丈53cm　身丈104cm　繰越1cm

並幅　總用布1002cm

附圖第七十六圖參照

2(袖口布丈－袖附＋襠上部紵代－繰越)＝補布

2(上身丈＋上衿肩明＋繰越＋前下＋衿先縫代及び緩)＝衿丈

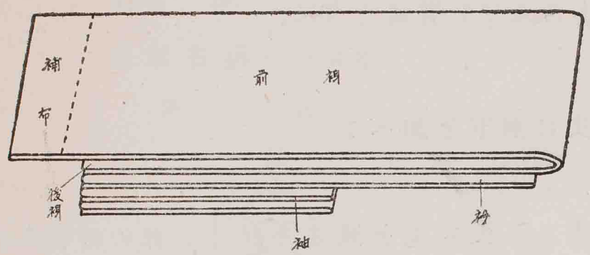
{總用布－(4袖丈＋衿丈＋補布)}÷4＝後身丈

後身丈＋補布÷2＝前布丈

後身丈－袖附＋衿代＝襠丈

折積方

第七十七圖



裁切方

1　袖を裁ち切り左右に別つ。

2　衿を裁ち切る。

3　前襠と補布とより續けて襠と袖口布とを裁ち落す但繰越1cm

肩當附

並幅　總用布1008cm

附圖第七十八圖參照

〔總用布－{4袖丈＋衿丈＋2前下＋(2後肩當丈＋前肩當丈)}〕÷4＝後身丈

後身丈＋前下＝前身丈(衿附の方)

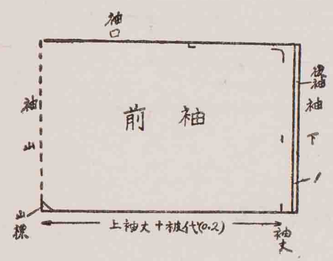
〔備考〕第七十八圖の裁方は肩當の前落を前襠落と續けて裁つ故棒襠に要する補布が不必要になる。

標附方

袖

左右の袖を中表に合せ,外袖を1cm長くして丈を二つに折る。

第七十九圖



1　袖丈　(上袖丈＋0,2cm)

2　袖口

3　袖口下縫代

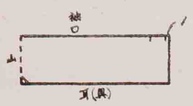
4　丸味

5　山標

袖口布

左右の袖口布を中表に合せて,丈を二に折る。

第八十圖



1　丈

2　袖口(表袖口－0,2cm)

3　山標